

第6学年 国語科学習指導案

1 単元 筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう

「平和のとりでを築く」 「自分の考えを発信しよう」

2 指導の考え方

(1) 子どもの実態

本学級の子どもたちは、これまでに「カレーライス」「やまなし」という2つの物語と「生き物はつながりの中に」という説明文、「森へ」という紀行文を学習している。「生き物はつながりの中に」では、文章の構成や表現に着目しながら筆者の考えを読み取るために、問題提起文と対応する答えの文を指摘したり、段落ごとに要点をまとめたり、小見出しを付け段落相互の関係から文章構成をとらえる学習をしてきた。また、題名の意味を考えながら筆者の主張や意図をとらえ、それに対する自分の考えをまとめて文章に書き表す学習もしてきた。

これらの学習を通して、子どもたちは、文章構成の工夫を考えたり、文脈の中での叙述をたどったりしながら、書き手の伝えたいことを読み取ることができるようになってきた。しかし、中心となる叙述を自分の力で見つけることができない子どもや部分的な読みで終わってしまう子どももあり、自力で文章構成を的確にとらえ、筆者の意図を読み取っていく力はまだ十分に育っているとは言えない。また、表現力については、自分の知識や経験とつないで考えたり友達の発表を聞きながら、自分の考えを深めたり広げたりすることが少しずつできるようになってきているところである。

(2) 教材について

第5学年及び第6学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広めたり深めたりしようとする態度を育てる。」ことである。この目標を達成するため本単元の「平和のとりでを築く」では、「エ. 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。」「イ. 目的や意図などに応じて、文章の内容を的確におさえながら要旨をとらえること。」の指導が必要になる。

本教材は、広島原爆ドームが世界遺産になった経緯を、筆者の思い、原爆ドームがたどった歴史、世界遺産への道のり、筆者の伝えたい考えという構成で表しており、「書かれている内容について、事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読む。」という（読むことエ）ねらいに迫ることのできる教材である。続く「自分の考えを発信しよう—インターネットと学習」は、平和というテーマに関わる多様な材料を集め、自分なりの考えをもち発信していくという、表現力を高めることができる教材であり、「自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組み立ての効果を考えること。」や「事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。」（書くこと

ウ、エ)の指導に適した教材である。

文章の特質としては、問いに対して明確な答えのある説明文ではなく、はじめと終わりには筆者の思いが強く書かれている文章である。擬人法、比喩法などが使われ、児童が比較的スムーズに読み進めていくことができると思われる。戦争(原爆)で傷を受けた原爆ドームを例にして、その歴史を読み取りながら、保存への道のり、多くの人々の希求する平和、筆者の伝えたいことを読み取り、これからの社会のあり方を6年生の児童に考えさせるにはふさわしい教材である。

(3) 指導にあたって

単元の導入では、これまでの平和学習や修学旅行への思い、新聞やニュース番組から得た情報を交流させ、学習への意欲を高めさせる。次に教科書を用い、本単元の構成が、説明文の読み—情報収集—自分の考えの発信という構成になっていることを確認し、学習の見通しをもたせる。そして、最終的には12月の全校朝会で全校に平和への思いを伝える機会を持つとともに、次の5年生が平和への思いを引き継いでくれるような1冊の本にまとめていくことを伝え、目的を明確にして取り組ませる。

また、「平和」というテーマについて、明確な根拠をもとに自分の考えを主体的に発信するために、次の三点を考慮して指導にあたりたい。一点目は、「平和のとりでを築く」の読み取りにおいて、筆者の考えを読み取るために、題名や文章の構成、キーワードなどから筆者の考えを要旨にまとめられるよう学習活動を作る。文章を正しく読み取っていけるよう、ワークシートの活用や文章への書き込みなどの活動をし、どの児童にも説明文の読み取りの力をつけたい。二点目は、筆者の考えに対する自分の考えをまとめていく際、自分の考えを具体的に書けるよう指導する。ここでは、インターネットを活用したり図書や視聴覚資料などを用意したりしたい。三点目は、「自分の考えを発信する」という終末の課題をとらえ、課題追求の計画を立てるなど、学習の見通しをもたせるようにする。また、自分の発信する事柄の根拠となるような情報を進んで集め、読んだり、話し合ったりすることを通して自分の考えを拡充するようにさせたい。この時、課題が似ているもの同士で情報交換したり、話し合ったりすることができるよう必要に応じて、グループでの学習形態も取り入れていきたい。

以上のことを配慮し、どの児童も自分の考えに従って主体的に発信できるよう指導していきたい。

3 単元の目標

- 筆者の伝えたいことに対して自分なりの考えをもち、自分の考えについて主体的に調べたり、分かりやすく伝えるために書き表したりすることができる。 【国語への関心・意欲・態度】
- 文章の内容を的確におさえながら要旨をとらえ、自分はどのように考えるかを明確にしながらか読むことができる。 【読む】
- 戦争や平和について、自分の考えが伝わるように、必要な材料を選んだり整理したりして、文章構成を考え、事実と意見を区別し、文章に書きまとめることができる。 【書く】
- 文中の語句や漢字の意味を理解し、指示語の効果的な使い方を身に付けて、書いたり話したりする時に適切に使うことができる。 【言語についての知識・理解・技能】

4 学習計画 (全17時間)

過程	時	主な学習活動と内容	指導上の留意点
読み の め あ て	1	1 単元名、リード文、題名から学習の構えをもつ。	○ 平和や戦争に関して、新聞を見たりニュースを視聴したりして知っていることや、これまでの平和学習で学んだこと、修学旅行で行く被爆地長崎への思いについて振り返らせ、「平和」について考えることができるようにする。
		2 教科書の単元構成から学習の見通しをもつ。	○ 既習学習を想起させながら、説明文を読んで筆者の考えを受け止め、その上で自分の考えを伝えるという学習の構えをもたせる。 ○ 教科書に目を通しながら、本単元が、説明文の読み—情報収集—自分の考えの発信という構成になっていることをとらえさせる。
予 見 予 見	2	1 単元名、題名、冒頭を読んで読み通しのめあてをつくる。	○ 冒頭の①段落で、筆者が「わたし」という語り手として原爆ドームに対する思いを語り出していることに着目し、単元名、題名とつないで、読み通しのめあてを生み出す。
		2 全文を読み通す。	○ 難語句の意味を確認したり、歴史的な背景について補足したりする。
予 見	3 4 5	1 全文を読み、意味段落に分けて、文章構成をとらえる。 2 読みのめあて①に対して、「原爆ドームがたどった歴史—世界遺産への道のり」を年表に整理する。	○ 形式段落を意味段落に分け、意味段落のつながりを考えさせる。 ○ 文章構成や文末表現、時を表す言葉や「保存」「世界遺産」という言葉をキーワードに、事実を正確にとらえることができるようにする。
	①	<p>【予見①の方向】</p> <p>② 1915年、物産陳列館として完成した。</p> <p>③ 作品展の会場として使われた。</p> <p>④ 1945年、原子爆弾が投下され、この建物にほど近い上空で爆発した。</p> <p>⑤ 全焼したものの、レンガと鉄骨の一部は残り、丸屋根の支柱の鉄骨がドームの形となって建物の最大の特徴をとどめた。</p>	

予見	<p>⑥ 戦後間もないころ、原爆ドームを保存するか取りこわすか議論が続いた。</p> <p>⑦ 1960年、一少女の日記がきっかけで、市民も役所も「原爆ドーム永久保存」に立ち上がった。</p> <p>⑧ 全国から保存を願う手紙や寄付が次々と集まり、補強工事がくり返された。</p> <p>⑨ 1992年、原爆ドームを世界遺産にしようという動きが高まり、市民中心の活動が全国へと広がった。</p> <p>⑩ 世界遺産とは、文化遺産と自然遺産を未来に向けて大切に守っていく制度である。</p> <p>⑪ 1996年、世界遺産の候補として審査を受け、決定の知らせが届いた。</p>	
	<p>3 予見①について話し合う。</p> <p>○ いつのことで、どんな出来事があった、その時の人々の思いはどうだったのかをはっきりさせる。</p>	<p>○ 足りない言葉や絶対落としてはいけない言葉を見付けるように助言する。</p>
予見②	<p>6 1 読み通しのめあて②に対する自分の読みを書きまとめる。</p> <p>○ 「語り手の思いー原爆ドームがたどった歴史ー世界遺産への道のりーまとめ」という文章構成を確認した上で、自分の読みを書きまとめさせる。</p>	<p>○ 文章構成に着目すれば、とらえやすくなることを助言する。</p> <p>○ 手がかりとなりそうな箇所にサイドラインを引かせる。</p> <p>○ 「?と思うこと」「はっきりさせたいこと」も書かせておき、後の学習に生かす。</p>
<p>【予見②の方向】</p> <p>筆者の大牟田さんは、「平和のとりでを築く」で、戦争をして、皆に親しまれた建物が全焼して傷だらけの「原爆ドーム」になったけれど、全世界の人々に核兵器の不必要さを伝える世界遺産であることと、もうこういう戦争をなくし、みんなで平和な世の中をつくらなければならぬことを伝えたいと思いました。</p>		
学習計画	<p>7 1 ⑬段落(まとめの段落)の「原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ。」という叙述を中心に、筆者の伝えたいことを明らかにする計画を立てる。</p> <p>○ 書きまとめた考えを発表し合い、読み確かめのポイントをつくる。</p>	<p>○ 筆者の伝えたいことは、⑬段落にまとめられていることに気付かせ、筆者の書き表し方に問題意識をもたせる。</p>
<p>【読み確かめるポイント】</p> <p>①「それを見る人」とは、だれのことを指しているのか。</p> <p>②「平和のとりでを築く」とは、どういうことなのか。</p> <p>③「世界の遺産」という言い方をしているのはなぜなのか。</p>		

読み 深 め ・ 読 み 確 か め	8	<p>1 筆者の伝えたいことを読み確かめるためのポイントについて確認する。</p> <p>2 読み確かめのポイントにそって叙述を確かめながら、筆者の伝えたいことについて書きまとめる。</p>	<p>○ まとめの段落のひとつひとつの叙述を問いかけながら、筆者の伝えたいことについて読み確かめるポイントを確認する。</p> <p>○ それぞれのポイントについて、根拠を明らかにしながら、筆者の伝えたいことについて書きまとめさせていく。</p> <p>○ ポイントの②では、ユネスコ憲章の前文の引用「戦争は人の心で生まれるものである」と関連付けて考えるよう助言する。</p>
	9 (本時)	<p>1 前時に書きまとめたものをもとに、話し合う。</p> <p>(予想される子どもの考え)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それを見る人 → 全世界の人々 (現在、未来) ・平和のとりでを築く → 一人一人が心の中に平和になってほしいという思いを強くどめておくこと。欲や憎しみを捨てること。 ・世界の遺産なのだ → 人々に認められた、日本だけではなく世界にとっても大切なもの。 <p style="text-align: center;">世界の人々に必要なもの。</p> <p>2 話し合っ明らかなになったことを書きまとめる。</p>	<p>○ 一人一人の読みの違いを生かして、それぞれの読み取りとその解釈を聞きあう中で、より確かに筆者の伝えたいことを受け止めさせていく。</p> <p>○ 根拠を明らかにして自分の考えを組み立てることができていれば、幅をもって認めていくようにする。</p> <p>○ 友達の読みや考え、感想と関連付けて自分の読みや考え、感想の深まりを書くように助言する。</p>
読 み の ま と め	10 11	<p>1 読み取ったことを振り返る。</p> <p>2 筆者の伝えたいことやそれに対する自分の考え、戦争や平和についての自分の見方・考え方を書きまとめる。</p> <p>○ 根拠をより確かにして、自分の考えを書きまとめる。</p> <p>3 書きまとめたものを交流し、戦争や平和についての自分の見方・考え方を見直す。</p>	<p>○ 前時まで読み取ったことを振り返り、筆者の伝えたいことに対する自分の考えをまとめやすいようにする。</p> <p>○ 前時まで読み取ったことと関連付けて宣言文「平和への誓い」を読むことで、筆者の伝えたいことをより一層具体的にとらえることができるようにし、戦争や平和についての自分の見方・考え方を書きまとめさせる。</p> <p>○ 「平和への誓い」を書いた6年生のように、戦争や平和についての自分の考えを発信したいという意欲を喚起する。</p> <p>○ グループでの交流、学級全体での交流を組み合わせながら、いろいろな友達の見方・考え方にふれ、自分の見方・考え方を見直すことができるようにする。</p> <p>○ 第1時でまとめた自分の見方・考え方と比べて、</p>

		<p>自分の見方・考え方の変容を自覚できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「社会の学習とつないで」「戦争や平和に関するニュースとつないで」「様々な本とつないで」といった視点をあたえることによって、自分の見方・考え方をさらに明らかにしたい、他の人にも発信したいという意欲を喚起する。 	
書 く	1 2	<p>1 筆者の伝えたいことをもとに、戦争や平和について考え、話し合う。</p> <p>2 発信する目的と相手、課題、方法を決める。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【課題の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 世界の平和のために、日本に住むわたしたちができることは何だろう。 </div> <p>3 調べることを具体化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時にかきまとめた自分の見方・考え方をきっかけに、戦争や平和についての問題意識を高め、発信する目的、課題へとつなぐ。 ○ イラク戦争などを例に挙げ、イラクの子どもたちの状況などを紹介する。教科書の囲みの中の内容や3人の子どものふき出しも参考にさせる。 ○ 修学旅行後、全校朝会で全校のみんなへの報告をするとともに、5年生に向けての「平和への思いを伝える本」を作っていく計画を立て、意欲を高める。 ○ 課題はできるだけ具体的なものにするように助言し、一人一人が情報を集め、考えをまとめていくようにする。課題が決まったら、調べることを具体化させていく。 ○ 調べることを具体化できない児童には、調べていく中で具体化、焦点化できるように支援していく。
	1 3	<p>1 現時点で考えていることを、「仮の要旨」として書く。</p> <p>2 「仮の要旨」が説得力をもつように、必要な材料を集める。</p> <p>3 集めた資料が信頼できる資料かどうか確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 仮の要旨は、一文でできるだけ明確に書くようにする。 ○ 事前に、活用できそうな図書資料やインターネットのホームページを把握していき、児童に紹介する。 ○ 必要に応じて、先に「インターネットと学習」を読んで、効果的にインターネットを活用できるようにする。 ○ いつ、だれが、どんな事実をもとにまとめて資料なのかを確かめるとともに、できるだけ複数の資料に目を通し、資料の信頼性を確かめる。
	1 4	<p>1 要旨をまとめ直す。</p> <p>2 文章の構成を考える。</p> <p>3 構成を見直す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集めた資料をもとに考え、「仮の要旨」を「確定した要旨」としてまとめ直すようにする。 ○ まとまりごとに見出しを付け、効果的な組み立てを考えていくようにさせる。 ○ 「平和のとりでを築く」の文章構成も参考にするように助言する。

<p>15 書 16 く</p>	<p>1 自分の考えを書きまとめる。 ○ 考えた文章構成にそって、文末表現に気を付けながら、事実と感想、意見を区別して、平和についての自分の考えを書きまとめる。</p>	<p>○ 書き出しや文末表現にも気を付けるように助言する。 ○ 段落と段落のつながりを考えて指示語や接続語を適切に使うことも指導する。 ○ 資料の書き写しにならないように、必要などころを選んで分かりやすく書くようにさせる。 ○ チェックシートなどを活用し、友達同士で交流して助言し合えるようにする。 ○ 文章構成を見直し、書き出しや文末表現に気を付けながら文章を書きまとめ、1冊の本にする。</p>
	<p>17 1 「インターネットと学習」を読んで、インターネットを活用する上で大切なことやルールを再度確かめる。 2 単元の学習の仕方を振り返り、まとめる。 (1) 説明文の読み方 (2) 情報の集め方 (3) 考えの発信の仕方 3 学習を終えた感想を書く。</p>	<p>○ 教科書やワークシートを振り返らせ、学習の仕方の定着を図る。 ○ 自分たちのまとめた本をもとに、この単元の学習を終えた感想を書いて読み合わせることによって、達成感を味わわせるとともに、学習した意味を実感させる。 ○ 継続して、「平和」について情報を収集して考えていくように意識付ける。</p>

5 本時 (9 / 17)

6 本時の目標

- 「平和のとりでを築く」「世界の遺産」という言葉の意味や、その言葉に込められた思いについて考え、筆者の伝えたいことを読み取ることができる。
- 自分の考えと友達のことを比べながら、筆者の平和に対する考えについて自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

7 本時指導の考え方

前時までに子どもたちは、原爆ドームがたどった歴史と人々の思いについて読み取ってきている。本時は、もう一つの読み通しのめあてである「平和のとりでを築く」で筆者は何を伝えたいのかを1-3段落を中心に読み確かめていく学習である。

その読み通しのめあてに対する自分の予見を方向付け、予見を話し合う中で、

- ・ 「それを見る人」とは、だれを指しているのか。
- ・ 「平和のとりでを築く」とは、どういうことなのか。
- ・ 「世界の遺産」という言い方をしているのは、なぜだろうか。

という読み確かめのポイントが生まれ、それを明らかにするために、前時にそれについての自分の読みを書きまとめている。

本時は、その読み確かめのポイントにそって書きまとめた自分なりの読みを話し合うことを通して、筆者の伝えたいことを読み確かめることがねらいである。

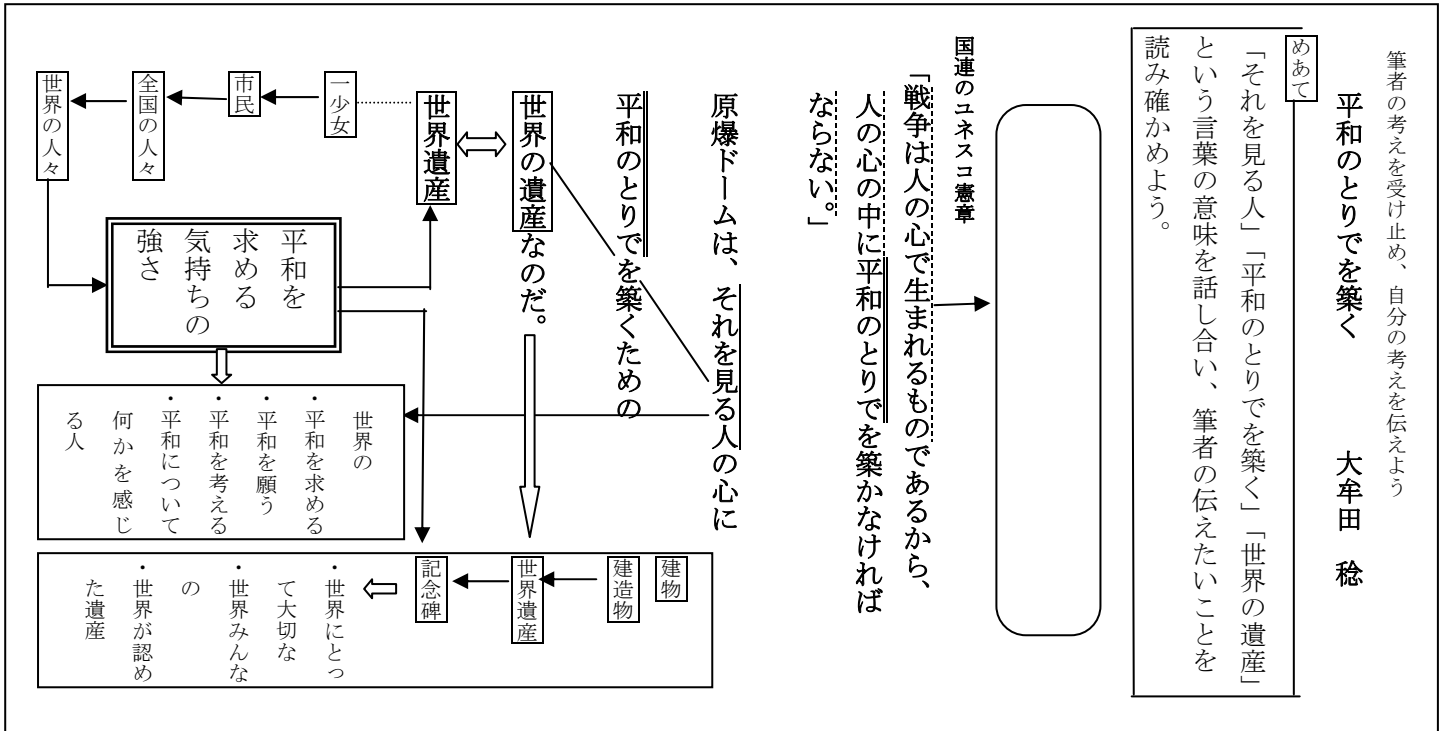
そこで、まず、一少女の日記をきっかけに運動が広がり、世界遺産に認定されるまでの道のりをたどって読むことを通して、「それを見る人」とは世界の人々であることを確認し、原爆ドームが「世界の人々の心に平和のとりでを築く」価値のあるものとして存在することを読み取らせるようにする。

さらに、「平和のとりでを築く」ことはどういうことかということについて話し合う。その際ここでは、国連ユネスコ憲章の「戦争は人の心の中で生まれるものであるから」という言葉に立ち止まり、自分たちの知識や経験と関連付けながら読んでいくようにする。その中で、戦争が、自分の欲望を優先させ、相手よりもいい位置の立ちたいという思いからはじまっていることをとらえ、だからこそ、戦争を許さず、平和を守っていく強い意志をもつことが「人の心の中に平和のとりでを築く」ことなのではないかと、つないでいけるようにしたい。

次に、「世界の遺産」という言い方をしているのはなぜかについて話し合う。ここでは、「の」に着目して、「世界遺産」と比較したり、「建物」「建造物」「世界遺産」「記念碑」「世界の遺産」という原爆ドームに対する書き表し方の変化をたどったりすることを通して、単なる建物ではなく、世界の人々にとって大切な存在であるという原爆ドームの価値について読み取らせるようにする。

話し合いに際しては、子どもたち一人一人の読みを分析したカルテをもとに展開し、それぞれの読みの共通点や相違点を生かせるように、指名の順序についても計画的に行うようにする。

8 板書計画



メモ

9 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>(1) 前時の学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 読み確かめるポイントについて、自分なりの考えを書き込んだことを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「それを見る人」とは、だれのことか。 ・「平和のとりでを築く」とは、どういうことか。 ・「世界の遺産」という言い方の意味は何か。 <p>(2) 本時のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の終わりに、本時の学習内容を知らせ、本時の見通しをもたせておくようにする。
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>「それを見る人」「平和のとりでを築く」「世界の遺産」という言葉の意味を話し合い、筆者の伝えたいことを読み確かめよう。</p> </div>	
<p>2 読み確かめるポイントについて話し合う。</p> <p>(1) 「それを見る人」とは、だれのことを指しているのかを話し合う。</p> <p>(2) 「平和のとりでを築く」とはどういうことなのか話し合う。</p> <p>(3) 「世界の遺産」という言い方をしているのはなぜかについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世界遺産」とどう違うのか。 ・「の」の後に続く言葉はなにか。 <p>3 今日の学習でを書き、発表する。</p> <p>4 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発言の仕方を確認し、筋道立てて自分の考えを述べるができるようにする。 ○ 世界遺産に登録された過程の「一少女」→「市民」→「全国の人々」→「世界の人々」への広がりに関連づけて考えさせる。 ○ ユネスコ憲章の言葉にある「戦争は人の心の中で生まれるもの」の意味を、自分の知識や経験とつないで考えさせる。 ○ 「の」に着目させることで、「世界の人々の」という意味をとらえさせるようにする。 ○ 原爆ドームの書き表し方の変化からも、その言葉に込められた筆者の思いを考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 建物 ・ 建造物 ・ 世界遺産 ・ 記念碑 ・ 世界の遺産 ○ 「なのだ」という文末に着目させることで、筆者の強い思いを感じ取らせるようにする。 ○ 学習前の自分の考えと比べながら書かせるようにする。

平和のとりでを築く

